

YAMATO Nature Circle



2025年8月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.79

——絵と文 群馬直美——

しおれた花《キショウブ》

ヤマトビオトープ園の池の辺りでキショウブの花と出会った。

すうっと伸びた茎の天辺に、咲き終えて丸まった花びら。

そのちょっと下の茎先には、お姫さまの黄色いドレスのように
大きな花びらがふんわりと3枚開いている。

「うわぁ、きれい！ 咲いた花も、枯れた花も美しい……」

数えてみると枯れた花は全部で5つ。どの花もそれぞれの枯れ方をしている。

ふんわりと咲いているときは、みんな同じように見えるのに……。

独創的な花の枯れ方に魅せられた。

1mくらい下の方でカットして、切り口に水を含ませたキッチンペーパーを巻きつけ、
新聞紙で包み立川のアトリエに持ち帰る。

ふんわりドレスの黄色いお姫さまは大丈夫だろうか……

電車を乗り継ぎながら、新聞紙の隙間からのぞき込む。

アトリエに到着するや否やバケツに水を汲み、

底に置いた剣山にキショウブの花の茎を挿すと、

ヤマトビオトープ園の池の辺りごと連れて帰ったような気持ちにさせられた。

青々とした線状の葉と直立する茎の存在感。

ふんわりドレスの黄色い花は……あぁ、しおれてしまった！ が、

しおれた花の中に残る生命のほとばしりが、

時計の針の進む速度に歯止めをかけているかのよう。

ふんわりドレスのころとは違う花の力強い美しさを感じ、わたしは急いで絵筆をにぎった。

《表紙の絵》キショウブ

「枯れた花も美しい！」

・ヤマトビオトープ園にて2025.5.22採集
(作品の完成日は、2025年6月17日)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目)/テンペラ
size:335mm×245mm ©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>